

◎ 薬の原料としての野生生物の需要

野生生物を原料に使った薬は日本では漢方薬として親しまれていますが、世界にはさまざまな野生生物を使った薬があります。

2016年に開催されたワシントン条約第17回締約国会議(CITES CoP17)でも伝統薬の原料として国際取引される種が議題になりました。

例えば附属書I(国際商業(もしくは商)取引禁止)に掲載されたセンザンコウは、うろこに伝統薬の原料としての需要がありました。またライオンの骨には薬や儀式での需要があります。附属書ではネコ科全種が附属書II(国際取引に許可が必要)以上に掲載されているため、CoP17ではライオンを附属書Iに格上げする提案がありました。会議の結果、ライオンは附属書IIのまま、アフリカに生息する野生個体の骨や歯の輸出割り当てをゼロにすることになりました。

では日本でワシントン条約に違反して税関で差し止められる薬の原料は、何が多いのでしょうか。

◎ 10年前は動物が原料の薬が多い

2006年の輸入差止実績を見てみると差止件数が多いのは動物です。

ジャコウジカ属は中国、ベトナム、インド、アフガニスタンなどの森林や山岳部に生息しています。IUCNレッドリストでは7種が絶滅危惧IB類(EN)にリストアップされ、高い狩猟圧により生息数が減少しています。オスの分泌物からとれるジャコウは香料のムスクとしても知られています。ジャコウジカ全種が附属書II以上になっています。使用される薬名「麝香壮骨」「片仔

廣」「安宮牛黄丸」などの薬に含まれています。

サイガは中央アジアに生息するウシ科の動物で、成熟した個体は約18,000頭で絶滅危惧IA類(CR)に分類されています。附属書IIに掲載され、オスの角は羚羊角と呼ばれて「銀翹散」などの薬に使われます。

アメリカンジンは、朝鮮人参と同じウコギ科の植物で、北アメリカ原産です。「西洋参」「正花旗參片」などの薬に含まれ、附属書IIに掲載されています。

◎ 最近はアロエの瘦身薬が増加

2015年の輸入差止実績を見てみると差止件数は減っていますが、最近増えているのがアロエです。食用にされる栽培品種のアロエベラとアロエ・バルバディヌスを除き、アロエ属全種が附属書II以上に掲載されています。つまり日本でよく見かけるキダチアロエも附属書IIです。そのうち観賞用に人気が高い種など個体数が減っている22種は、附属書Iになっています。アロエは痩せる薬として「終極瘦身」「SUPER FAT BURNING」などの薬に使われています。

木香(もっこう)はインド北部のヒマラヤ山脈に分布するクイ科の植物です。根が薬、香料、防腐剤として商業利用され、急速に生息数が減少しています。レッドリストでは絶滅危惧IA類(CR)に分類され、ワシントン条約では附属書Iに掲載されています。薬品名は「琥珀油五味丸」などです。

天麻(てんま)とは日本にも自生するラン科のオニノヤガラのことです。ワシントン条約では、ラン科全種が附属



オニノヤガラ 撮影地 山梨県
Photo: Tetsuya Kitazawa

書II以上に掲載されているため、国内に持ち込むには原産国の許可が必要です。ただしラン科でもシンビジウムやデンドロビュームのように交配種を人工的に繁殖させたものはワシントン条約の対象外です。天麻が使われている薬品名は「終極瘦身」「神奇天麻湯香包」などです。

サオラはペトナム、ラオスの森林に生息するウシ科の動物です。レッドリストでは絶滅危惧IA類(CR)に分類されており、サオラの総数は750頭未満と推測されています。しかし生息地の一部が禁猲でなかったり、保護区になっていたいなかったりと危険な状態にあり、附属書Iに掲載されています。サオラが使われた薬は「同仁牛黃清心丸」です。

日本の税関で差し止められた薬の多くは、中国から郵送されていました。税関のウェブサイトには1年間に差し止められたすべての品目が掲載されていますので、伝統薬を利用する際には、違法な材料が使われた薬ではないかを確認することができます。

出典: IUCN Red list、財務省 ワシントン条約該当物品不正輸入差止等実績

輸入差止された薬に使われていた動植物上位6種の推移					
2015年	差止件数	数	2010年	差止件数	数
1 アロエ	121	648	木香	162	11,132
2 木香(もっこう)	53	653	ジャコウジカ	64	604
3 天麻(てんま)	43	562	アメリカンジン	53	84
4 ジャコウジカ	29	155	石斛(せっこく)	52	503
5 サオラ	10	317	天麻	30	289
6 クマ	9	702	クマ	25	208

JWCS 認定特定非営利活動法人 野生生物保全論研究会

設立: 1990年 NPO法人格取得: 2001年 認定取得: 2014年

名誉会長: 小原秀雄(女子栄養大学名誉教授) 会長: 安藤元一(ヤマザキ学園大学教授) 副会長: 小川潔(東京学芸大学名誉教授) 森川純(蔦屋学園大学名

誉教授) 事務局長: 鈴木喜理恵 理事: 永石文明(㈱エコロジー・バース) 並木美穂子(帝京科学大学教授) 西原智裕(IWSコンゴ) 吉沢広祐(国際学院

大学教授) 山根惟一(京都大学教授) 監修: 鎌田厚子(女子栄養大学教授) 顧問: 岩田好宝(元・中学高校教諭)

平18-0022

東京都葛飾区境1-11-19 モウタAPT102

Tel&Fax: 0422-54-4865

E-mail: info@jwcs.org http://www.jwcs.org

表紙:アマミノクロウサギ

JWCS通信 2016年度通巻80号

2017年3月発行

発行人=安藤元一

編集=鈴木喜理恵

デザイン=土井優子

【会員・寄付のご送金先】

郵便振替 00160-9-715145

加入者名 野生生物保全論研究会

正会員年額 5,000円

